

# コウモリの世界



コウモリ写真家&ライター 大沢タ志

※ 本稿の写真は大沢タ志による。禁無断転載

## ● コウモリのイメージ

コウモリは、実際に見る機会、知る機会の少ない生き物です。そのためか、画一的なイメージ、どちらかというマイナスのイメージが先行してしまっている動物です。

みなさんはコウモリとはこんな生き物だということという先入観を持っていると思います。たとえば「洞窟に入る」「夜活動する」「黒い」「超音波を使う」「血を吸う」などでしよう。ですが、これらはどれも一部のコウモリにしか当てはまりません。

コウモリがとても多様な生きものであることを知ってもらう、それが今回の話のねらいです。



洞窟には入らないアブラコウモリ



昼間にも飛ぶヤマコウモリ



カラフルな亜種ダイトウオオコウモリの雄



超音波は使わないクビワオオコウモリ



コウモリ 1500 種のうち哺乳類の血液を食べる唯一の種、ナミチスイコウモリ

## ● コウモリは多様な生き物

コウモリというのは目レベルのくくりの名称で、とても大雑把なくくりです。

コウモリは世界に約 1500 種、これは哺乳類の中では、ネズミ目に次いで多く、繁栄している動物とっていいでしょう。日本国内では 39 種が知られています。

洞窟に入るコウモリはだいたい半分くらいの種類。昼間、積極的に飛ぶコウモリもいます。

真っ黒のコウモリは少なく、色彩も多様です。

超音波を使うコウモリはだいたい 90% くらいで、残りの種は超音波は使わず、視覚や嗅覚に頼っています。

血を食料にするのは 1500 種類コウモリがいるうちの 3 種類だけ。

コウモリとしての唯一の共通点は、「空を飛べる哺乳類」です。空を飛べるので分布も広く、南極と北極圏の一部を除いて陸上のほとんどの地域にいます。

体のつくりについては、手の骨が翼を支えていることは共通していますが、大きなものは翼を広げると 2m 近く、小さなものは体重 2g と多様です。

洞窟以外のねぐらとしては、人間の造った建物を使うもの、植物を使うもの、巻いた葉の中や、雪の中など、ちょっと変わったコウモリもいます。



高架橋の隙間をねぐらにするアブラコウモリ



雪の中でも冬眠するコテングコウモリ

自然観察大学では千葉県の方が多いようなので、最後に千葉県のコウモリ相について話しましょう。

戦争遺跡にユビナガコウモリが多いことや、種数がとても少ないこと、ヤマコウモリやヒナコウモリが少ないことが千葉県での特徴です。

残念ながら時間がなくなりました。申し訳ありませんが、食べものの話や超音波の話は省略します。

超音波についても、音の高さと、餌を捕る場所や翼の形の関係、捕る側のコウモリと捕られる側

の蛾の作戦の進化など、とても興味深い話がたくさんあります。  
また、コウモリに新たに興味を持って頂いた方も多かったようですね。  
みなさんにたのしそうに聞いていただき、とても話しやすかったです。  
ありがとうございました。

.....

終了後のアンケートなどでいただいた質問に、大沢先生からご回答をいただきました。  
この場で掲載させていただきます。

**Q：** 空を飛ぶためには骨の中味などが野鳥のように工夫されているのでしょうか

**A：** 鳥のように骨が中空になっていたりはしません。歩くことをやめて、足の骨や筋肉を細くして体重を軽くしています。

**Q：** 日本のコウモリについては悪い病気はないとのことですが、海外ではコロナの時もコウモリが宿主ではないかとの推測もあり、怖い印象がありました。世界中でコウモリに出会ってき、その辺は上手に付き合われているかと思われませんが、あまり過敏に警戒する必要がないのでしょうか

**A：** これはコウモリだけの話ではなく野生哺乳類全般に言えることですが、近づきすぎない、素手で扱わないというのは基本です。これは人間の側だけでなく、コウモリの側に「病気」をうつさないためでもあります。私どもは海外でも捕獲調査をする機会があるので、狂犬病などの予防接種は受けています。